様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：３３９１７
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｈ０１１８２

研究課題名（和文）倫理的理由の分断と崩壊に関する問題領域を横断した検討による社会的議論の再生

研究課題名（英文）Revitalization of Social Debate through Examination of the Fragmentation and Corruption of Ethical Reasons

研究代表者
神崎　宣次（Kanzaki, Nobutsugu）

南山大学・国際教養学部・教授

研究者番号：５０４２２９１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　6,510,000円

研究成果の概要（和文）：個別の領域での事例の分析について成果が得られており、それらは既に公表されている。そうした成果には、原子力業界における心理的安全性の欠如、人工知能技術におけるAIアライメント、EdTechの社会導入、軍事研究およびデュアルユースの問題、安全保障の推進に関わる問題、環境問題に関連して生じた差別の事例、ポストトゥルースの問題、などである。これらの事例の検討から、尊厳や人権や自由といった上位の価値観、憲法のような上位規範、人間の安全保障のような重要な理念が、社会的な議論においてより明実質的に参照されるべきという一定の結論が得られている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的意義は、主に個別領域での事例の検討にある。研究計画全体としての価値は主に社会的意義にあると考えられる。それは、近年重要となっているELSIやRRI、そして安全保障などを含む社会的議論がどのように進められるべきかについて、上位の規範や価値の参照という一定の方向性が示されたからである。さらに加えて、こうした成果を学会などの社会的存在意義を検討する議論の場で行ってきたことの重要さも指摘できるだろう。

研究成果の概要（英文）：The results were obtained from the analysis of cases in individual domains. These include the lack of psychological safety in the nuclear industry, AI alignment in artificial intelligence technology, social adoption of EdTech, military research and dual-use issues, issues related to the promotion of security, and cases of discrimination related to environmental issues. The examination of these cases led to conclusion that higher values such as dignity, human rights and freedoms, higher norms such as constitutions, and important principles such as human security should be referenced more explicitly and substantively in social discussions.

研究分野：倫理学

キーワード：理由　不正義　崩壊　分断

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

倫理的な理由が、それに対抗するものとして提出される「理由」によってその効力を減じられ、本来なら行うべき解決策等がとられなくなってしまう状況が存在する。こうした状況を本研究では崩壊と呼ぶ。
崩壊の具体例としては、自動運転技術の社会実装にあたって、倫理的受容可能性に関わる問題が存在するにも関わらず、社会受容の向上が図られている、というものを挙げることができる。別の例には、スティーブン・ガーディナー（2011）*A Perfect Moral Storm.* が論じている、気候変動対策をすべき理由がそれをしない「理由」によってその効力を阻害されている現状がある。こうした状況が、倫理学が対象としてきた諸問題領域においてかなり広範に発生していると考えられた。このような状況は、重要な社会的議論の分断・阻害をもたらすため、その処方箋の検討には社会的意義がある。

２．研究の目的

そこで本研究の目的は、倫理学の幅広い領域において生じている崩壊をまず個別の問題領域として分析した上で、それらの議論を領域横断的に検討することにある。

３．研究の方法

各メンバーの専門性を考慮した結果、以下のような個別領域での分析を分担することを決定した。そうした個別労委帰任は、環境・持続可能性、人工知能などの先端技術、教育、安全保障、フェミニズム、差別が含まれる。これらの個別領域についての研究は主に文献に基づく調査と分析によって行われた。
個別領域での分析結果の統合について採用できる明確な方法論は存在していない。そのため、各分担者による分析を共有し、共同での検討を行うという方法を採用した。

４．研究成果

個別の領域での事例の分析について成果が得られており、それらは既に公表されている。そうした成果には、原子力業界における心理的安全性の欠如、人工知能技術における AI アライメント、EdTech の社会導入、軍事研究およびデュアルユースの問題、安全保障の推進に関わる問題、環境問題に関連して生じた差別の事例、ポストトゥルースの問題、などである。以下でいくつかについて、もう少し詳しく説明する。
たとえば、過去の原子力関連施設での事故などの重大インシデントには、異常の兆候や、阻止可能な問題点の認知があったにもかかわらず、関係者が対策をとらなかったことによって生じたケースが含まれている。こうしたケースは予防原則の事例であるとともに、問題を認知した関係者がいたとしても組織の利害や人間関係を考慮したためにそのことを指摘しない方がよいとしてスルーしていまうという心理的安全性の欠如の事例でもある。この問題に対して、組織、その構成員、そしてより広範な社会にとってのリスクという三重の観点を導入することによって、各種組織は心理的安全性を重視するのが望ましいと説得力を持って示すことができる。
自動運転技術や EdTech や人工知能を含む先端情報技術の社会的受容性に関する議論は日本国内でも精力的に行われているが、特に欧州での議論と比較した場合に、そうした議論が最終的にどのような根拠に位置づけられるかという視点が欠如していることは明白である。そのため、本研究でいう崩壊が生じやすいと考えられる。このような現状に対して必要な対処として、憲法のような上位規範、自由や人権や尊厳といった広く共有されているとみなすことができる重要な価値への明示的な言及・参照を議論に含めるようにすることが求められる。
さらに、技術研究・開発とデュアルユースや安全保障の問題に関連する議論においては、新規技術の研究・開発を過度に制限することのリスクや、そもそもの不可能性を指摘することによって、倫理的な根拠に基づく一定の制限の主張に対する反論とされることがある。こうした反論に対しては、研究の推進か禁止かという二者択一が求められているのではないという事実を指摘した上で、安全保障の追求と平和や軍縮の追求の両立可能性こそが検討されるべき方向性であると考えられる。
また安全保障の問題には、ディスインフォメーションの拡散などによる社会の分断という深刻な問題が含まれている。ポスト・トゥルースの状況に対して、限定的な処方箋ではあるが、民主主義の理念に加えて報道倫理や教育哲学の観点からの分析が得られた。
これらの事例の検討から、尊厳や人権や自由といった上位の価値観、憲法のような上位規範、人

間の安全保障のような重要な理念が、社会的な議論においてより明実質的に参照されるべきという一定の結論が得られている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 神崎宣次	４．巻 No. 517 (10月11日号)
２．論文標題 環境(1) 「危機」と技術的解決可能性	５．発行年 2021年
３．雑誌名 文部科学教育通信	６．最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉添 衛、服部 宏充、江間 有沙、大澤 博隆、神崎 宣次、久木田 水生、小川 祐樹	４．巻 23
２．論文標題 グループディスカッションにおける可視化情報提示に基づく気づき支援	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ヒューマンインタフェース学会論文誌	６．最初と最後の頁 501～512
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11184/his.23.4_501	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 上村 崇	４．巻 57
２．論文標題 ポスト・トゥルース時代の議論	５．発行年 2021年
３．雑誌名 法政論叢	６．最初と最後の頁 373-390
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20816/jalps.57.0_373	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 岡本 慎平	４．巻 22
２．論文標題 eスポーツはスポーツか？もしそうでないなら、どのような意味で？	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ぷらくしす	６．最初と最後の頁 1～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15027/50884	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐藤静	４．巻 38
２．論文標題 新潟水俣病維持件における妊娠規制の問題：優生思想と フェミニスト倫理学の観点からの検討	５．発行年 2020年
３．雑誌名 医学哲学医学倫理	６．最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤静	４．巻 5(3)
２．論文標題 「特集1　分析フェミニズムの歩き方」の一部	５．発行年 2020年
３．雑誌名 フィルカル	６．最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 眞嶋俊造	４．巻 35
２．論文標題 何がその研究を軍事研究とするのか　――分類と事例から考える	５．発行年 2020年
３．雑誌名 社会と倫理	６．最初と最後の頁 187-199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 神崎宣次
２．発表標題 第三報告
３．学会等名 応用哲学会第１３回研究大会　ワークショップ「自動運転技術の社会的受容 ―記述的研究と規範的研究の接点―」
４．発表年 2021年

１．発表者名 大谷卓史・大澤博隆・壁谷彰慶・神崎宣次・久木田水生・西條玲奈
２．発表標題 意思決定支援としての研究倫理 ～ AoIR倫理ガイドラインの原理と倫理分析 ～
３．学会等名 電子通信情報学会 技術と社会･倫理研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 岡本慎平
２．発表標題 eスポーツの研究と倫理：倫理学からみたeスポーツと科学・生理学の課題・未来,
３．学会等名 第29回日本運動生理学会大会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 岡本慎平
２．発表標題 楽しいゲームが害になる時：インターネット・ゲーム障害の倫理的含意について
３．学会等名 アバター共生社会の倫理（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 神崎宣次
２．発表標題 倫理の観点からみたEdTechのELSI論点
３．学会等名 シンポジウム「学習データ利活用EdTech（エドテック）のELSI（倫理的・法的・社会的課題）」（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤静
２．発表標題 富田八郎の功罪
３．学会等名 第42回社会思想史学会大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 岡本慎平
２．発表標題 トロリー問題（とその亜種）の規範倫理学における限界（ワークショップ：社会の中の道徳的ジレンマ）
３．学会等名 日本科学哲学回第53回
４．発表年 2020年

１．発表者名 岡本慎平
２．発表標題 「考え、議論する」道徳教育における功利主義の有効性（ワークショップ：初等・中等教育に対する倫理学の貢献可能性――道徳的諸価値への倫理学的アプローチ）
３．学会等名 日本倫理学会第71回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 神崎宣次
２．発表標題 論点整理
３．学会等名 ワークショップ「航空宇宙分野とデュアルユース技術」第三回
４．発表年 2021年

〔図書〕　計4件

1．著者名 アブドゥラッハマン・ギュベルヤズ編、佐藤静ほか	4．発行年 2021年
2．出版社 松本工房	5．総ページ数 191
3．書名 多文化社会学解体新書：21世紀の人文・社会科学入門(佐藤静「差別としてのヘイトメッセージ：〈傷つき〉の経験をめぐって」)	

1．著者名 稲原美苗、川崎唯史、中澤瞳、宮原優 編、佐藤静ほか	4．発行年 2020年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 208
3．書名 フェミニスト現象学入門(佐藤静「ケアをお金で買うってどういうこと？」)	

1．著者名 伊藤邦武、山内志朗、中島隆博、納富信留 編、神崎宣次ほか	4．発行年 2020年
2．出版社 筑摩書房	5．総ページ数 304
3．書名 世界哲学史７(神崎宣次「第5章 進化論と功利主義の道徳論 神崎宣次」)	

1．著者名 篭橋一輝 編、眞嶋俊造ほか	4．発行年 2020年
2．出版社 南山大学社会倫理研究所	5．総ページ数 172
3．書名 希望の種をまく人　―マイケル・シーゲル氏を偲んで(眞嶋俊造「正戦論・戦争倫理学」 pp．108-112)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	眞嶋　俊造 (Majima Shunzo) (50447059)	東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・教授 (12608)	
研究分担者	上村　崇 (Uemura Takashi) (50712361)	福山平成大学・福祉健康学部・教授 (35411)	
研究分担者	岡本　慎平 (Okamoto Shimpei) (70821023)	広島大学・人間社会科学研究科（文）・助教 (15401)	
研究分担者	佐藤　静 (Sato Sayaka) (80758574)	大阪樟蔭女子大学・学芸学部・准教授 (34409)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関